

わ が 街 わ が 故郷

## ダイベア(株)名張工場と名張市

### ダイベア(株)の紹介

創業者岩井安治郎が昭和11年2月に大阪精密工業所を創立し、当時外国製が中心だったベアリングを日本で製造する理念に燃えてスタートしたのが当社の始まりです。

名張工場は名張市蔵持工業団地に昭和46年2月操業を開始しました。操業当初は広い敷地の中に建屋ひとつのみの工場でしたが、以後増築を繰り返し、現在では6つの建屋を擁するまでになっています。

### 名張市の紹介と歴史

古くより名張は大和の国に隣接し、伊賀盆地の南に位置し、東西往来の要所として開けました。遠くは万葉の昔、当麻真人麻呂の若い妻は、持続天皇に伴って伊勢に旅立った夫の安否を気遣い、「吾が背子は何処くゆくらんおきつもの名張の山を今日か越ゆらん」と万葉集に秀歌をしりしています。

江戸時代の初め（1636年）、津の藩主藤堂高虎の養子高吉（たかよし）が名張に移封されてから、現在の町は伊勢参りの宿場町として形造られ、さらに藤堂氏の城下町として一層発展しました。上方文化が絶えず流入する町であり、能楽の大成者、観阿弥が妻の出里であり、名張に創座したのもこの地が文化的な先進地であっ



藤堂家（正面）

たことを証明しています。

明治8年に現在の市街地にあった梁瀬（やなせ）村、平尾村、北出村、南出村が合併し、梁瀬村（名張川に鮎を取る築（やな）が多く設けられていたことにちなむという。）となり、明治13年に名張村と改称し、明治22年に町制を施行して名張町が誕生しました。このころから商業の町としての性格を強め、伊賀、大和の境界における地域経済の飛躍的な発展を遂げました。

大正11年に伊賀鉄道、さらに昭和5年に参宮鉄道（現在の近畿日本鉄道）が開通するに至り、産業・観光面で飛躍的な発展を遂げました。その後、周辺各村との合併を重ね、昭和29年3月31日、遂に市制を施行することになり、名張市が誕生しました。

昭和39年、蔵持工業団地が造成され、当社名張工場が昭和46年に操業開始し、以後工業団地

が数々造成され、現在では約50社が操業しています。

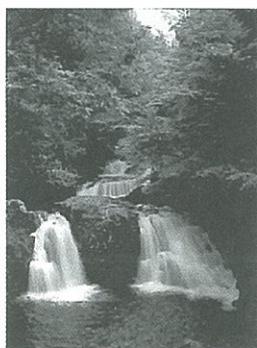
人物としては日本の探偵小説を創始した作家江戸川乱歩がいます。乱歩は明治27年、名張の町に誕生しました。生後まもなく転居したせいで、乱歩にとって名張は「見知らぬふるさと」でありつづけましたが、晩年になってようやく名張の地を踏むことができました。

これをきっかけに、昭和30年には名張市民の手で「江戸川乱歩生誕地」碑が建立されました。



「江戸川乱歩生誕地」碑

日本の滝100選や森林浴の森100選、遊歩100選に指定された「赤目四十八滝」があります。赤目四十八滝は、滝川の清らかな流れと深い森がつくる文字通りの深山幽谷。



赤目四十八滝

滝をつなぐ約4kmの回遊路は遊歩道となっていて、桜、新緑、紅葉と四季折々の鮮やかな風景の中、滝を望むことができます。また、たくさんのオオサンショウウオが棲息しており、夜行性のため、ふつう昼間は岩かけに隠れているのですが、運が良いと昼間に水中を移動したり、岩の上をのんびりしている姿を見ることができます。

毎年4月に名張中央公園にて「名張桜まつり」が開催され、樹齢25年前後のソメイヨシノは今が盛りと咲き誇ります。園内道路沿い約350mの間にできる桜のトンネルは圧巻で、提灯を点灯し、歩行者天国として開放されます。



名張桜まつり

また、近くに夏見廃寺跡や市内が一望できる展望台「ビューナ」があり、散策にも最適なところです。

(名張工場 管理部総務課長 井口 雅嗣)